

平成二十六年 度

小学校教員資格認定試験

教職に関する科目(Ⅱ)

国 語

注 意 事 項

受験者は、左記注意事項によること。それ以外の注意事項は試験実施大学の指示によること。

- 一、試験監督者の「始め。」の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 二、実施大学名、氏名、受験番号、受験科目を平成二十六年 度「幼稚園・小学校教員資格認定試験解答カード」(以下、「解答カード」という。)の指定された欄に必ず記入してください。
- 三、受験番号、受験科目をマークしてください。
- 四、ただし、受験科目のマークについては、小学校の欄にマークしてください。
- 五、解答カードの中で特に受験番号、受験科目の欄の記入及びマークを間違えると失格になるので注意してください。
- 六、解答は、すべて解答カードの解答欄にマークで記入してください。問題冊子に答えを書いても無効です。
- 七、マークは必ず鉛筆を使用して、枠内にきちんと記入してください。
- 八、訂正する時は、消しゴムで完全に消してください。また、解答カードを曲げたり折ったりしてはいけません。
- 九、解答カードが汚れた場合や折れてしまった場合は、試験監督者に解答カードの交換を申し出てください。
- 十、この試験の解答時間は、「始め。」の合図があつてから五〇分です。
- 十一、試験が終わるまで退室できません。
- 十二、試験監督者の「やめ。」の合図があつたら、直ちにやめてください。
- 十三、下書きには問題冊子の余白を使用してください。
- 十四、試験終了後、問題冊子を持ち帰ってもかまいません。

[マーク例]

(よい例) ●

(悪い例) ○
○
○

*以下の問いにおいて、『小学校学習指導要領(国語)』とは、『小学校学習指導要領(平成二十年三月、文部科学省告示第二十七号)第二章 第1節 国語』を言う。

問一 次の文は、『小学校学習指導要領(国語)』の〔第3学年及び第4学年〕の「2 内容」における「A 話すこと・聞くこと」の②に示されている言語活動例である。文中の空欄 A から D に入る語の組合せとして最も適切なものを、後のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

〔第3学年及び第4学年〕

- ・ 出来事の A や調査の報告をしたり、それらを聞いて B を述べたりすること。
- ・ 学級全体で話し合つて C をまとめたり、意見を述べ合つたりすること。
- ・ 図表や絵、 D などから読み取つたことを基に話したり、聞いたりすること。

	A	B	C	D
ア	紹介	感想	考え	資料
イ	説明	意見	考え	写真
ウ	説明	感想	発言	文章
エ	紹介	意見	発言	作品

問二 次の文は、『小学校学習指導要領(国語)』の(第5学年及び第6学年)の「2 内容」における「B 書くこと」の(1)に示されている内容である。文中の空

欄 から に入る語の組合せとして最も適切なものを、後のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ・考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を し、全体を見通して事柄を整理すること。
- ・事実と 、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。
- ・表現の効果などについて確かめたり したりすること。
- ・書いたものを発表し合い、 の仕方に着目して助言し合うこと。

	A	B	C	D
ア 収集	感想	工夫	表現	
イ 調査	考え	評価	表現	
ウ 調査	感想	比較	説明	
エ 収集	考え	検討	説明	

問三 『小学校学習指導要領(国語)』における「第1学年及び第2学年」の「2 内容」における「B 書くこと」の(2)に示されている言語活動例に含まれないものを、次のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 伝えたいことを簡単な手紙に書くこと。

イ 紹介したいことをメモにまとめたり、文章に書いたりすること。

ウ 身近なこと、想像したことなどを基に、詩をつくったり、物語を書いたりすること。

エ 経験したことを報告する文章や観察したことを記録する文章などを書くこと。

問四 『小学校学習指導要領(国語)』における「第5学年及び第6学年」の「2 内容」の「C 読むこと」の(1)に示されている指導内容として正しくないものを、次のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。

イ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらかつ読んだりすること。

ウ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。

エ 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。

問五 次の文は、『小学校学習指導要領(国語)』の各学年における「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の(1)の「ア 伝統的な言語文化に関する事項」に示されている内容である。文中の空欄 A から D に入る語の組合せとして正しいものを、後のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

〔第1学年及び第2学年〕

(ア) 昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり、 A し合ったりすること。

〔第3学年及び第4学年〕

(ア) 易しい文語調の短歌や俳句について、 B を思い浮かべたり、リズムを感じ取りながら音読や暗唱をしたりすること。

(イ) 長い間使われてきた C や慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと。

〔第5学年及び第6学年〕

(ア) 親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章について、内容の大体を知り、音読すること。

(イ) D について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。

	A	B	C	D
ア	音読	場面	熟語	古典
イ	発表	情景	ことわざ	古典
ウ	朗読	情景	熟語	古文
エ	紹介	場面	ことわざ	古文

問六 『小学校学習指導要領(国語)』における各学年の「2 内容」の「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」のうち、(1)の「イ 言葉の特徴やきまりに関する事項」に示されている指導事項について、学年と事項の組合せとして正しいものを、次のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア [第1学年及び第2学年]—文の中における主語と述語との関係に注意すること。
- イ [第3学年及び第4学年]—送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。
- ウ [第3学年及び第4学年]—日常よく使われる敬語の使い方慣れること。
- エ [第5学年及び第6学年]—音節と文字との関係や、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くこと。

問七 『小学校学習指導要領(国語)』、「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」の3の(2)に、教材選定の際に配慮すべき観点か十点示されている。次のアからエのうち、その十点に含まれないものを一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 国語に対する関心を高め、国語を尊重する態度を育てるのに役立つこと。
- イ 人間、社会、自然などについての考えを深めるのに役立つこと。
- ウ 生活を明るくし、強く正しく生きる意志を育てるのに役立つこと。
- エ 日本人としての自覚をもって国を愛し、国家、社会の発展を願う態度を育てるのに役立つこと。

問八 次の文章は、『小学校学習指導要領(国語)』、「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」において、各学年の「2 内容」の「A 話すこと・聞くこと」に

関する指導の在り方について述べた事項1の(3)を抜粋したものである。AからDの空欄に入る語の組合せとして正しいものを、後のアからエから一つ選んで記号で答えなさい。

第2の各学年の内容の「A 話すこと・聞くこと」に関する指導については、 的、 的に指導する機会が得られるように、第1学年及び第2学年では年間 単位時間程度、第3学年及び第4学年では年間30単位時間程度、第5学年及び第6学年では年間25単位時間程度を配当すること。その際、音声言語のための教材を活用するなどして の効果を高めるよう工夫すること。

	A	B	C	D
ア	意欲	調和	30	学習
イ	意欲	弾力	35	学習
ウ	意図	段階	30	指導
エ	意図	計画	35	指導

問九 『小学校学習指導要領(国語)』の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」の「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に示された漢字の学習に関する内容について述べたものとして最も適切なものを、次のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 学年ごとに配当されている漢字は、当該学年においてのみ指導することができる。

イ 当該学年より後の学年に配当されている漢字及びそれ以外の漢字については、振り仮名を付けるなど、児童の学習負担に配慮しつつ提示することができる。

ウ 漢字の指導においては、学年別漢字配当表に示す漢字の字体を遵守すること。

エ 漢字の指導は各学年で行い、年間30単位時間程度を配当すること。

問十 『小学校学習指導要領解説 国語編』(平成二十年八月、文部科学省)「第3章 各学年の目標と内容」の「第2節 第3学年及び第4学年」において、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の書写に関する事項について述べられた内容として誤っているものを、次のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 「漢字や仮名の大きさ」とは、漢字と漢字、漢字と仮名、仮名と仮名との相互のつり合いから生じる相対的な大きさのことである。

イ 「配列に注意して」とは、行の中心や行と行との間、文字と文字との間がそろっているかなど文字列及び複数の文字列に注意してということである。

ウ 「形を整えて書く」とは、一つの文字の構成要素となる部分相互が等間隔であること、左右対称であること、同一方向であることなどを考えて書くことである。

エ 「書く速さを意識して」とは、書く場面の状況や字体の特性などによって速さが決まってくることを意識することである。

問十一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

人の死を、脳が死ぬ時点に置くのならば、A 的な B 性と C 性から考えて、人の生は、脳がその機能を開始する時点となる。つまり「脳始」である。脳始論に立てば、明らかに、受精卵はまだヒトではない。細胞分裂が進み、その中から神経系の初発段階が形成され始めるのは、受精後およそ二十日前後のことである。脳の神経回路網が構築され、脳波が現れるのはさらにずっとあと、受精後二十四〜二十七週のことである。いわゆる意識が——それがどのようなものかここではあえて深入りしなけれど脳の活動の直接的な産物とするなら——生まれるのはこのあとまもなくのことだろう。

脳死がヒトの死を前倒ししたように、「脳始」は D のしかたによっていくらかでもヒトの生の出発点を先送りしうる。

しかし何ゆえそんなことが必要なのか。それは脳死と臓器移植の関係と全く同じである。死んだと E した身体から、まだ生きている細胞の塊を取り出したい。それと同じ動因が、ヒトの出発点近傍にも存立しうる。受精卵およびそれが細胞分裂してできる胚が、脳始以前の、まだヒトではないものと F しうるのなら、それは単なる細胞の塊に過ぎないとみなしうる。そうならば、胚を再生医療などの名目でいくらかでも利用しうることになる。

(福岡伸一『世界は分けてもわからない』による。)

本文中の空欄

A

から

C

に入る言葉の組合わせとして最も適当なものを、次のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

	A	B	C
ア 論理	対照		一貫
イ 論理	対称		整合
ウ 論理	対照		妥当
エ 論理	対称		互換

問十二 問十一の文章中の空欄

D

から

F

に入る共通の語は何か。次のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 応用
- イ 批判
- ウ 補足
- エ 定義

問十三 問十一の文章の内容に合致するものを、次のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 胚を用いた先端医療の恩恵を受けて、ヒトの寿命は飛躍的に延びている。
- イ 臓器移植や再生医療は、ヒトの生の時間を両側から切断して縮めている。
- ウ 受精卵に宿るヒトの意識と寿命との相関を探る研究が、推進されている。
- エ 脳始論と脳死論は、ともにヒトの生の終末を巡る議論を停滞させている。

問十四 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

今は昔、竹取の翁といふものありけり。野山にまじりて竹を取りつつ、よろづのことに使ひけり。名をば、さぬきのみやつことなむいひける。その竹の中に、もと光る竹なむ一筋ありける。あやしがりて、^A寄りてみるに、筒の中光りたり。それを見れば、三寸ばかりなる人、^Bいとうつくしうてゐたり。

(「竹取物語」による。一部表記を改めた。)

右の文章中の傍線部A「あやしがりて、寄りてみるに」、「の口語訳として最も適切なものを、次のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 不思議に思って、側に寄ってみると、
- イ 紛らわしいので、近寄って見ると、
- ウ 不思議に思って、集まって見たが、
- エ 紛らわしいので、側に寄ってみたが、

問十五 問十四の文章中の傍線部B「うつくしうてゐたり」の現代仮名遣いとして最も適切なものを、アからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア うつくしくてへたり
- イ うつくしくていたり
- ウ うつくしゅうていたり
- エ うつくしゅうてへたり

問十六 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、設問の都合で送り仮名を省略した。

顔淵（ハク）問（フ）仁（ヨ）。子曰（ハク）克（カ）己（ニ）復（カ）礼（ニ）為（ス）仁（ト）。一日克（チ）己（ニ）復（レ）礼（ニ）天下（A）歸（ス）仁（ニ）焉（B）。為（ス）仁（ニ）由（ル）己（ニ）而（シテ）由（ラ）人（ニ）乎（ヤ）哉。
顔淵曰（ハク）請（フ）問（フ）其（ハク）目（ト）。子曰（ハク）非（ザ）礼（ニ）勿（カ）視（ル）非（ザ）礼（ニ）勿（カ）聽（ク）非（ザ）礼（ニ）勿（カ）言（フ）非（ザ）礼（ニ）勿（カ）動（ク）。顔淵曰（ハク）回（ニ）雖（シ）不（レ）敏（ナ）。請（フ）事（ス）斯（レ）語（ヲ）一（ニ）矣。
（『論語』による。）

（注） 克——打ち勝つ。

復——立ち返る。

由——基づく。

目——詳細。

回——顔淵（孔子の弟子）の名。ここでは顔淵が自分のことを指して言っている。

不敏——賢くない。

右の文章の傍線部A「帰」のこの文章での意味として最も適切なものを、次のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 急ぐ
- イ 進む
- ウ 従う
- エ 離れる

問十七 問十六の文章中の傍線部B「焉」の働きとして最も適切なものを、次のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 再読文字

イ 置き字

ウ 反語

エ 比況

問十八 問十六の文章中の傍線部C「回雖」不敏、請事、斯語」矣。」の書き下し文として最も適切なものを、次のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 回 敏すと雖も、斯の語を請事とせんと。

イ 回と雖も不敏なりと、斯の語を事とせんと請ふ。

ウ 回 不敏なりと雖も、請ふ斯の語を事とせんと。

エ 回 敏あらずと雖も、斯の語を請ふ事とせんと。

問十九 「連濁」の例として最も適切なものを、次のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 「反応」を「はんおう」ではなく「はんのう」と発音する。
- イ 「山鳥」を「やまとり」ではなく「やまどり」と発音する。
- ウ 「食べるな」を「たべんな」と発音する。
- エ 「草（くさ）」の「u」を声帯を震わせずに発音する。

問二十 次の傍線部「と」の中には、「友人と図書館で勉強した」の「と」と同じ用法のものがある。それをアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 荷物が多いので、田中と吉田の二人を連れて行った。
- イ 試験の成績を見て、父が弟にもっと勉強しろと言った。
- ウ 仕事が早く終わったので、妹と買い物に行った。
- エ 寒かったが、マフラーと帽子で我慢した。